

燃え続けていく ～ 先へと運ばれていく ～

2024年11月2日は、恵泉女学園創立95周年記念式である。筆者は 2021年7月1日 新渡戸稲造（1862-1933）から学んだ河井道（1877-1953）が、初代学園長である恵泉女学園の9代目理事長を拝命することになった。

河井道は、創立10周年を機に、『” My Lantern”（わたしのランタン）』を著した（1939年）。【河井道は自著『わたしのランタン』の終わりに『ここまで、わたしは、私のランタンをかかげてきた。時がくると、それは別の手へと引き継がれて、さらに先へと運ばれていくであろう。私たちの魂の『太陽』が、この世界の面から、うれいと闇の跡をひとひらも残さず追いはらうまで、このランタンが、芯を切りととのえられ、燃え続けていくように、わたしはそれのみを願っている』】と記述している。

女子教育に 大いなる理解を示した新渡戸稲造（東京女子大学 初代学長）が、河井道（恵泉女学園 創立者）、津田梅子（1864—1929；女子英學塾 創立者）、安井てつ（1870-1945；東京女子大学 第2代学長）を援護した。河井道は、1898年 新渡戸稲造 夫妻に伴われて渡米し、布林マー大学に入学した。帰国後1929年 恵泉女学園を設立した。

競争的環境の中で、皆、個性に輝きたいであろう。どうしたら、個性に輝けるのか。『自らの強みを基盤にする：自分の専門職を持て！』&『自分の懐中電灯を持て！』 人の懐中電灯を借りてもしょうがない。北極星みたいなものばかり求めるのではなく、自分の懐中電灯で 足元を照らすことが肝要であろう！ 『無くてならないものは多くない』、そして『無くてよいものに縛られるな』である。

さらに、もう一つ、尺取虫運動（画像）である。『尺取虫運動』は、【自分のoriginal pointを固めてから、後ろの吸盤を 前に動かし、そこで固定して 前部の足を前に進める。かくて いつも自分のoriginalityを 失わないですむ = どんな境遇、状況でも 確実に 前進できる人物になれ】の実践であろう。

